

## 核医学治療（シラバス）

開催形式	大項目	中項目	小項目
1. 核医学治療に必要な疾患の理解と放射線技術			
講義		1-1	核医学治療の実施に診療放射線技師が必要な臨床的知識
		1-1-1	甲状腺機能亢進症に対する診断/治療とI-131カプセルによる核医学治療
		1-1-2	甲状腺癌に対する診断/治療とI-131カプセルによる核医学治療
		1-1-4	骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌に対する診断/治療とRa-223による核医学治療
		1-1-5	神経内分泌腫瘍に対する診断/治療とLu-177 DOTATATEによる核医学治療
		1-1-6	I-131 褐色細胞腫・傍神経節腫に対する診断/治療とMIBGによる核医学治療
		1-2	核医学治療に必要な放射線技術学
		1-2-1	放射線物理学
		1-2-2	放射線治療学
		1-2-3	医学物理士からみた核医学治療に必要な放射線技術（核医学治療におけるQC/QA）
2. 核医学治療を行う際の管理業務			
講義		2-1	関連する法令と届出事項、線量限度、管理加算
実習		2-2	患者の退出基準と線量率測定
実習		2-3	養生や汚染検査と放射性廃棄物の廃棄
実習		2-4	液体・気体廃棄物の濃度測定と貯留槽の管理
講義		2-5	安全管理体制（院内協議、役割分担の確認、緊急連絡体制）、コールドランの実施
		2-5-1	外来治療におけるポイント【甲状腺機能亢進症のNaI】【Y-Zevalin】【RaCl2】
		2-5-2	入院治療におけるポイント【甲状腺がんに対するヨード治療】【131I-MIBG】【Lu-Dotatate】
講義		2-6	必要な機材・機器の準備と院内教育研修の実施
		2-6-1	外来治療におけるポイント【甲状腺機能亢進症のNaI】【Y-Zevalin】【RaCl2】
		2-6-2	入院治療におけるポイント【甲状腺がんに対するヨード治療】【131I-MIBG】【Lu-Dotatate】
実習		2-7	核医学治療病室での治療
実習		2-8	特別措置病室での治療
		2-8-1	蓄尿の管理について
3. 核医学治療におけるイメージングと線量評価(Dosimetry)			
講義		3-1	定量性の意義とその方法
		3-1-1	SPECT撮像における定量性
		3-1-2	PET撮像における定量性
		3-1-3	撮像装置の管理方法
		3-1-4	周辺機器の管理方法
講義		3-2	線量評価(Dosimetry)の意義とその方法
		3-2-1	線量評価(Dosimetry)の臨床的意義
		3-2-2	線量評価(Dosimetry)とは何か？
		3-2-3	線量評価(Dosimetry)はなぜ行う必要があるのか？
		3-2-4	線量評価(Dosimetry)はどのように行うのか？
		3-2-5	線量評価(Dosimetry)に必要な撮像装置や周辺機器QC/QA
		3-2-6	線量評価(Dosimetry)の現状と今後の課題
実習		3-3	線量評価(Dosimetry)
		3-3-1	I-123のイメージング
		3-3-2	In-111のイメージング
実習		3-4	定量性
		3-4-1	各種補正法による影響
		3-4-2	TACの設定方法による影響
		3-4-3	ROIの設定方法による影響
4. 多職種連携			
講義		4-1	核医学治療の取組み 各職種から見た核医学治療
		4-1-1	診療放射線技師
		4-1-2	医師（核医学専門医）
		4-1-3	医学物理士（放射線治療分野）
		4-1-4	看護師
		4-1-5	薬剤師
		4-1-6	栄養士（ヨウ素制限食）

4項目 講義610分 実地300分 合計910分(約15時間)